

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：舞鶴市

プロジェクト名	赤れんが・引揚を核とする京都舞鶴港活性化プロジェクト	実施期間	平成23～26年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>海の京都の戦略拠点に指定する「赤れんが倉庫群」は、明治から大正期にかけて旧日本海軍により整備。平成20年に国の重要文化財に指定され、本市が全国に誇れる貴重な近代化遺産であり、重要な資源であることから、赤れんがパークとして整備を行っているところである。（海の京都構想と連携）</p> <p>また、本市では、戦後13年間にわたり、「引き揚げのまち」として大陸、シベリアから引き揚げてこられた方々を暖かく迎え入れ、自分達の苦しい生活を顧みず、出迎えや湯茶の接待、慰問など全市民をあげて取り組んだ経過があるが、戦争を知らない世代が増える中、引き揚げの歴史は過去の出来事として徐々に風化しつつある。そのため、我が国の戦後の発展に果たした社会的役割を次の世代に語り継ぐとともに、平和の尊さを広く発信することが求められている。</p> <p>さらに、天然の良港と呼ばれる京都舞鶴港は、平成23年11月には国土交通省から日本海側拠点港に選定され、関西圏唯一の日本海側ゲートウェイとしての必要性・重要性が高まっていることから、大型クルーズ客船の誘致によるインバウンド観光など、京都舞鶴港を活かした地域活性化策に積極的に取り組んでいる。（京都舞鶴港ランドブリッジ構想と連携）</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>平成26年度に舞鶴若狭自動車道及び京都縦貫自動車道が全線開通が見込まれる中、舞鶴市を中心とした京都府北部の5市2町で開催する「海フェスタ京都」を弾みに、人流や物流の流れが大きく変わることから、これを好機としてとらえ、赤れんがパークを中心に観光ブランド戦略に基づく観光振興施策を展開し「海の京都」を全国に発信する。</p> <p>また、風化しつつある引き揚げの史実の継承と平和の尊さをより広く発信するため、平成26年3月に、舞鶴引揚記念館が所蔵するシベリア抑留と引き揚げに関する資料（手記・絵画等）570点について、世界記憶遺産への登録を目指し、ユネスコへ申請。同年6月に国内選考が行われ、「ユネスコ記憶遺産事業」の審査に付する国内候補に選定されたところであり、平成27年度の世界記憶遺産登録に向けより一層のPRに努めている。</p> <p>さらに、京都舞鶴港については、ハード・ソフト両面から貿易港としての機能強化を講じるとともに、国・京都府及び舞鶴港振興会と連携した振興策を積極的に展開し、大型クルーズ船のさらなる寄港対応や人流・物流の飛躍的な増加を目指す。</p>						
	総事業費（千円）	856,984	本年度事業費（千円）	181,073	交付金額（千円）	67,934	
プロジェクトを構成する事業の平成26年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）	
	赤れんが観光戦略拠点化事業	交付対象事業	赤れんがパークのブランディング（サマーイルミネーション、冬期ステンドグラス、写真展など）、赤れんがパーク各種イベントの情報発信（月刊誌への掲載）			鋤田正義写真展の開催（5/3～7/6・来場者1,917人）、海フェスタ京都サマーイルミネーションの実施（7/19～8/3・来場者10,880人）、DRUM TAO特別公演（10/17・来場者700人）、赤れんがステンドグラス2014の開催（12/13～25・来場者5,000人）観光インフォメーションカウンターの整備、CIロゴ発表会（3/2）、旅行雑誌（ディスカバージャパン）を活用した情報発信	

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：舞鶴市

市町村 実施事業	観光産業振興事業	交付対象事業	観光産業の促進に向けた意欲ある民間事業者の取組の支援、地域ブランドのプロモーション活動、着地型観光の推進、外国人観光客誘客プロモーション、海軍ゆかりの観光遊覧船の運航、「まいづるまち博」の開催、周遊観光バスの運行支援など	<ul style="list-style-type: none"> ●舞鶴ブランドプロモーション事業 全国に向けた舞鶴ブランドのプロモーション活動（首都圏・中京圏・京阪神圏）の実施、るるぶ特別編集版の作成（50,000部、電子版） ●地域ブランドプロモーション事業 岩がき井キャンペーン（6,009食）、かき井キャンペーン（3,708食）、まいづる地場産市場の開催（11/9） ●インバウンド事業 外国人観光客の誘致にかかるパンフレットの作成、ホームページの多言語化、現地プロモーション、専門家招致による受入体制・海外向け情報発信の強化など ●着地型観光推進事業 海軍ゆかりの港めぐり遊覧船運行事業（11,363人）、着地型旅行商品の造成・実施、観光案内所の運営支援 ●観光産業育成支援事業（9件） 誘客イベント開催、おもてなし向上、土産商品開発など ●海の京都観光推進事業 海フェスタ京都まいづるまち博の開催（7/1～8/31） ●周遊観光バスの運行 利用者6,871人、舞鶴かまぼこ手形の発行4,426枚 他
	世界記憶遺産登録推進事業	交付対象事業	風化しつつある引き揚げの史実の継承と平和の尊さを発信するため、ユネスコ世界記憶遺産登録を目指す	有識者会議の開催（2回）、世界記憶遺産PR活動、東京タワー特別展示（12/6～14・来場者7,869人）、舞鶴引揚記念館教育旅行誘致（54校）、収蔵資料のデジタル化（322件・撮影枚数3,122枚）、舞鶴引揚記念館全面リニューアル工事（26年度～27年度、セミナールームの増築など）※27年9月リニューアルオープン予定
	京都舞鶴港を活用した人流拡大事業	交付対象事業	大型クルーズ客船の誘致活動及び寄航対応	大型クルーズ客船寄港にかかるおもてなし事業や京都舞鶴港発着クルーズの実施（ダイヤモンド・プリンセス、ばしふいっくびいなす、コスタ・ビクトリア、ロストラル等 全15回）、クルーズフォトコンテストの実施
	京都舞鶴港日本海側拠点機能推進事業	関連事業	日本海側拠点港に選定されたそれぞれの機能について、目標の早期実現に向け、国・府・近隣市や関係団体等と連携し、名実ともに京都舞鶴港が日本海側の拠点港として確立されるよう、利用促進に取組む	日本海側拠点港の機能別目標の早期実現に向けたプロモーション事業等（韓国への経済ミッションの派遣等）
	京都舞鶴港振興会等補助事業	関連事業	一般社団法人京都舞鶴港振興会が行うポートセールス活動等への補助	

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：舞鶴市

住民協働事業	赤れんが文化創造・交流事業	交付対象事業	赤れんがパークで行われる市民主体の賑わい創出活動への支援、FMを活用した情報の発信	赤れんが鉄道フェスタ（4/26～27・来場者3,900人）、赤れんがアートワークショップ（5/3～4・来場者5,500人）、田主誠心の旅版画展（9/18～10/5・来場者3,124人）、赤れんがフェスタin舞鶴（10/18～19・来場者約38,000人）、赤れんがライトアート（2/3～3/2・来場者約8,000人）等の各種イベントの開催、エフエム京都によるイベント・観光情報の発信（毎週木曜日）	
	対岸諸国との交流拡大事業	交付対象事業	市内企業の国際展示会への出展支援、姉妹・友好都市間での交流など	中小企業の展示会出展等、販路開拓に対する補助（3件）、ナホトカ市青少年レスリング訪問団受入事業（選手等13名を受入）、ポーツマス市訪問青少年英語研修（市内中高生11名参加）、浦項市青少年交流訪問団受入事業（中学生等26名）、大連市旅遊局代表団受入事業（3名）、国際交流員の配置（1名）	
住民が取り組む事業					
成果指標①	成果指標の目標数値	赤れんが倉庫群等の近代化遺産の活用数（平成26年度：8件）		成果指標の実績値（27年3月31日時点）	8件
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	赤れんがパーク（4号棟・5号棟）の整備完了及び旧北吸浄水場配水池の整備に伴うもの。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標②	成果指標の目標数値	クルーズ客船の寄港回数（平成26年度：10回）		成果指標の実績値（27年3月31日時点）	15回
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	ダイヤモンド・プリンセスの連続入港を中心とした外国客船の寄港回数が増加したため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標③	成果指標の目標数値	京都舞鶴港発着クルーズ回数（平成26年度：6回）		成果指標の実績値（27年3月31日時点）	2回
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	外国の船会社による新たなクルーズを開始したが、日本海側へ配船するスケジュール等の調整が難航し、年2回にとどまった。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成	成果指標の目標数値	国際展示会への参加、経済ミッションの派遣（平成26年度：10回）		成果指標の実績値（27年3月31日時点）	8回

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：舞鶴市

果 指 標 ④	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	国内外での展示会に出展したほか、中国・韓国へ経済ミッションを派遣した。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ⑤	成果指標の目標数値	コンテナ年間取扱量の充実（平成26年度：10,000TEU）		成果指標の実績値 (27年3月31日時点)	9,082TEU	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	ポートセールスに伴い新規荷主を獲得したことなどによって、前年比30%増。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ⑥	成果指標の目標数値	対岸諸国におけるプロモーションの活動 (平成26年度：5回)		成果指標の実績値 (27年3月31日時点)	5回	
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	国際フェリー航路開設やクルーズ客船寄港増加に向けて、中国・韓国で活動実施したことによるもの。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成 果 指 標 ⑦	成果指標の目標数値	舞鶴引揚記念館所蔵資料のユネスコ世界記憶遺産への登録		成果指標の実績値 (27年3月31日時点)	平成26年6月12日、国内候補(2件のうち1件)に決定	
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	平成26年3月に、舞鶴引揚記念館が所蔵するシベリア抑留と引き揚げに関する資料（手記・絵画等）570点について、世界記憶遺産への登録を目指し、ユネスコへ申請済。その後、同年6月に国内選考が行われ、国内申請件数4件の中から、「ユネスコ記憶遺産事業」の審査に付する国内候補(2件のうちの1件)に決定した。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	平成27年度が登録可否の発表年度となるため	(時期)	平成27年10月初旬に登録結果発表の予定
<p>本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果</p> <p>※未達成の場合も効果を記載すること</p>		<p>赤れんが4号棟及び5号棟の整備完了に伴い、プロジェクションマッピングや赤れんがフェスタをはじめとする様々な仕掛けを施すなど、赤れんがパーク全体の魅力・ブランド力の底上げを図り、観光戦略拠点化に大きく前進した。併せて、舞鶴ブランドの全国的なプロモーション活動や、外国人観光客の誘致を念頭に置いたインバウンド戦略を実施するなど、国内外を問わず積極的な情報発信に努めた。</p> <p>また、京都舞鶴港の活性化及び利用促進については、年間のコンテナ取扱量が大幅に増加したことに加え、大型クルーズ客船の誘致活動等が実を結び、年間寄港回数が過去最高値を更新するなど本市の人流・物流の拡大に大きく寄与していると言える。</p> <p>さらに、風化しつつある戦争の記憶を後世へ伝えるとともに、繰り返してはならない戦争の悲惨さや平和の尊さを広く世界に発信すべく、世界記憶遺産への登録に向けたPR活動を効果的に行うことで、国内選考を通過することで、平成27年度の登録に向け引き続きプロモーション活動を展開している。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>				

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成26年度分）

団体名：舞鶴市

本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	京都府及び一般社団法人舞鶴港振興会と連携の下、効果的なポートセールスの実施等により、コンテナ取扱数の増大を図ることができた。
	府と市町村等との連携に資する成果	京都府及び一般社団法人舞鶴港振興会と連携の下、効果的なポートセールスの実施等により、コンテナ取扱数の増大を図ることができた。
	住民の自治意識を高める成果	
	リーディング・モデル成果	近代化遺産である赤れんが倉庫群を中心として、赤れんがパークを一体的に整備するとともに、サマーイルミネーションや冬期のステンドグラスなど、年間を通じて様々な仕掛けを施すことで、観光戦略拠点としての魅力及び機能性を存分に発揮することができた。 また、本市をメイン会場とする「海フェスタ京都」の開催により、赤れんが・舞鶴港の魅力を改めて発信することができた。
	広域的波及成果	「日本海側拠点港」選定を契機とし、京都舞鶴港を関西経済圏における日本海側の人流・物流拠点とするため、既存航路の活性化並びに定期航路の増便等に積極的に取り組んだ結果、平成25年6月、舞鶴－韓国航路の増便（週2便）が実現した。
	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	姉妹友好都市及び京都舞鶴港における背後圏への人流・物流の拡大を通じて、さらなる信頼関係の構築に寄与することができた。 また、世界記憶遺産登録に向けた効果的なプロモーションを通じて、国内選考を通過することができた。

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。